

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説
(平成 28 年 2 月 12 日)

衛霊公 第十五

【七】子曰く、与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う。与に言うべからずして、之と言えば、言を失う。知者は人を失わず。亦 言を失わず。

孔子が言うには、言葉は相手に合わせながら言うべきものである。人間を見てなかなか立派な言動をする人だと思ったら、声をかけて共に語り合うべきである。共に語り合うことをしなければ、その人との縁を逃がすことになる。ところが相手が声をかけてきて返事をしないのは失礼だと思って、いかにも話が通じ合うように盛り上がって会話するのは単なる空疎な言葉のやり取りだけだから、言葉が無駄になる。知恵のある人間は、これと思う人間は逃がすことはしないし、無駄な言葉を発することもしない。

知恵のある人間は世の中に必要であろう。自分も知恵のある人間になろうではないか。孔子は自分のことを振り返りながら言っています。

最近のことで言いますと、政治家同士で結婚をして、奥さんがおめでたである。ご主人が子供のために育児休暇を取ると宣言をして周りが良いことだと賛同をしてくれましたが、ご本人は奥さんが出産の一週間前に違う女性と会っていたと世間に流れていました。「共に語り合うべき人物である」と考えると、育児休暇を宣言した時には、周りの人間は寄って来てちやほやした。良いと思った時に会って話すべきであるが、もしかして売名行為をしているのではないかと思ったら、一瞬待って話しかけるとよいでしょう。待たないで、すぐ話しかけて、これはどうしようもない人間だったと分かったら一所懸命に話かけた言葉が無駄になってしまう。

どうぞこちら辺は、ご自分の周りの人を照らし合わせながら読まれるとよいでしょう。例えば、詩吟の会などで、お仲間にあの人は良い人だから付き合いたいと思うのであれば、少し様子を見てから声をかけるとよいでしょう。知者としての知恵のあるものの態度です。

【八】子曰く、志士仁人は生を求めて以て仁を害すること無く、身を殺して以て仁を成すこと有り。

「志士仁人」は志のある人とか、徳を現実に完成させている人。孔子が言うには、仁を尊ぶ人は命を惜しんで道徳心を傷つけるようなことはしない。しかし自分を殺して行動することによって仁を完成させることは十分にある。

洪澤栄一が明治維新の時、志士達は「朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」という言葉を唱えて死地に飛び込んでいく。死地に飛び込む時の言葉と明治維新の志士達がいたずらに自分達の生を長らえようとして、間違えた行動をすることは有り得ない。身を殺すことで次の時代に素晴らしい縁をもたらす。自分の一身を省みることなく行動するのは素晴らしいと解釈をしていたようです。

これをそのまま今の時代にあわせてみれば、志のある人物を例えば安倍首相で考えてみますと、安倍首相は憲法改正を祖父の代から引き継いでいますので、憲法改正を達成することができれば、いたずらに自分の命を長らえることはしない。一身を省みずに憲法をぜひ改正したいと現在の行動に出ているであろうと、一見したところは見えます。でもそれは皆さんが見ると、どこかおかしいのではないかとも感じるどころだと思います。ただ相当な決心をもっているのだらうと同時に感じます。

前に申し上げましたが、沖縄でデモをしています。デモをしているところに対して、かなり乱暴なやり方で機動隊を送り込んでいます。最初は警察を送り込んでいたものが今は機動隊を送り込んでいる。機動隊がデモ隊を阻止する時には、あばら骨ぐらいは折っても良いと命令が出ているように感じられます。次々に参加者のあばら骨を確信的に折っているようにしか見えないとのこと。ちなみに私の兄がその様子を見に行ったところ、政府からしかるべき人が来た時には、何も無茶なことはしない。誰も視察に来ないとか、またはのんびりしている日は両方共のんびりしている。これがメディアなど入ると両方共いきり立ってお互いにやり合う。どうもデキレースのような感じがします。デキレースの時は、メディアも映して世の中に流れます。それが真実のようになってしまう。そこら辺が怖い話だなと感じます。